

広島市立大学 附属図書館の将来像 (2022—2027)

1 附属図書館の使命

附属図書館は、本学の教育研究活動全般を支える学術情報基盤として、図書、学術雑誌及び視聴覚資料ほか、教育及び研究に必要な、電子リソースを始めとする様々な形態の学術情報を収集し、整理し、保存し、閲覧に供するとともに、それらを体系的に提供するシステムを整備し、教職員及び学生の調査及び研究に資することを使命とする。

また、教育研究活動における「知る」、「考える」、「伝える」能力を醸成するための環境を提供することで、教育研究活動を支援するとともに、優れた教育研究の成果を地域に還元する情報発信拠点として地域社会に貢献する。

2 附属図書館の基本目標及び取組事項

基本目標 1 学修・教育支援機能の強化

① 学生用資料の整備・拡充

学修・教育支援に必要な図書の更新を進める。学部と連携し、学習専門書の収集方針を確立するとともに、学生の興味を引き出すような準学習書籍（専門書と一般書の中間）の収集を行う。また、ノートパソコンの必携化等に伴い、従前からの紙媒体に加えて電子書籍の整備及び利用促進に取り組む。

② 学習支援のための体制整備

学生協働による学習支援体制（ラーニングチューター制度）を構築する。また、こうした活動や学生の自発的な学修を後押しするため、いちコマなどの環境を整備し、学生主体による活用を促進する。

また、3学部合同基礎演習や地域課題演習等に合わせた資料の収集・紹介など、授業活動との連携を強化する。

③ 読書活動の推進

学生の読書力の向上のため、知のトライアスロンを継続するとともに、学生の読書活動の振興のため、学生参加型の各種イベント（ブックハンティング、ビブリオバトル、読書大会）を企画・実施する。また、学生が外部施設の資料を積極的に活用できるよう、MLA連携（広島県内外の博物館、美術館、資料館、図書館との連携）を進める。

基本目標 2 研究活動支援機能の強化

① 研究情報の安定的提供

研究用書籍、ジャーナル（電子ジャーナル含む。）等を安定的に整備する。また、利用者が迅速かつ的確に多くの学術情報にアクセスすることができる提供システムを整える。

② 研究情報の管理

オープンアクセス（オープンサイエンス）など、研究者の教育研究成果発信の場を構築するとともに、共同研究の誘引や研究成果の社会還元などの戦略的な活用を促す。また、異分野連携や共同研究、大規模なグループ研究等に必要なRDM（研究データ管理）の整備に向けた取組を行う。

基本目標3 地域貢献

地域の図書館を利用した情報発信や、所蔵資料の地域への提供のため、公共図書館や他大学の図書館等との連携を強化する。また、社会連携センター等と連携し、地域に向けた学内の教育研究成果の発信や地域の文化活動、課題解決等への支援を行う。

基本目標4 基盤整備

① 設備・環境の整備

開館30年を迎え、劣化している設備や時流に合わなくなった蔵書を見直すなど、大幅な刷新を図る。これにより、学習意欲が湧く環境、雰囲気を作り、来館したくなる図書館を目指す。また、大学が進める教育のデジタル化に対応できるよう、館内の設備や環境の整備に努める。

② 資料及び提供体制の整備

紙の図書や雑誌等に加え、電子ジャーナルや電子ブックなどの電子的リソースを積極的に整備するとともに、利用者が必要な学術情報資源を効率的に入手できるよう、これらを一括検索できるディスカバリーサービス等の最適な環境を整備する。また、館内の横溢化を解消し、利用者の利便性の向上及び蔵書の充実を図るため、空スペースに集密書庫を設置する。

③ 人的資源の育成

図書館職員は、司書としての専門知識に加え、常に新しい状況に対応できるよう知見を広げながら、利用状況の把握分析と図書館運営へのフィードバック、学習意欲を引き出す企画の立案、効果的な館内展示の企画などのスキルの習得に努め、図書館機能の充実のために活用する。また、デジタルデータの取扱いに習熟した人材の確保を図る。

④ 学内関係機関との連携

資料や情報の収集、アーカイブ、情報発信等について、学部や附属施設等の関係機関との連携協力を推進する。